

平成 24 年度

◆平成 24 年度 活動年表◆

月	活動内容
8 月	・平成 24 年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」に採択
9 月	・国立大学法人京都工芸繊維大学 KIT 男女共同参画推進センター規則制定（13 日）
10 月	・KIT 男女共同参画推進センターの設置（1 日） ・第 1 回 KIT 男女共同参画推進センター会議（17 日）
11 月	・研究支援員制度利用者の学内公募開始（1 日） ・文部科学省主催「女性研究者研究活動支援事業合同シンポジウム」へ参加（20 日） ・KIT 男女共同参画推進センターコーディネータの就任（22 日） ・男女共同参画社会を実現するための教育プログラム講演会の開催（22 日） ・（独）国立女性教育会館主催「平成 24 年度大学等における男女共同参画推進セミナー」へ参加（29 日～30 日）
12 月	・研究支援員の雇用開始（1 日） ・第 2 回 KIT 男女共同参画推進センター会議（27 日）
2 月	・東京大学および東京医科歯科大学訪問、意見交換（1 日） ・岐阜大学訪問、意見交換（4 日） ・KIT 男女共同参画推進センターホームページの開設（20 日） ・KIT 男女共同参画推進センターキックオフセミナーの開催（22 日） ・KIT 交流サロンの設置（22 日）
3 月	・第 3 回 KIT 男女共同参画推進センター会議（15 日） ・平成 25 年度前期研究支援員制度利用者の学内公募開始（19 日） ・KIT 男女共同参画推進センター通信ニュースレター創刊（28 日） ・KIT 男女共同参画推進センターリーフレットの発行（28 日） ・両立支援相談のご案内（リーフレット）の発行（28 日） ・KIT 男女共同参画推進センター参考図書の設置

KIT 交流サロン

平成 25 年 2 月、「KIT 交流サロン」を設置しました。

女性教職員や女子学生の交流の場として、研究（仕事）や育児、介護の情報交換の場として、相談やグループワーク、ランチミーティングの場として、ご利用いただけます。男性教職員の方もご利用いただけます。学内教職員の分野を越えての繋がりを促進していきます。

また、育児や介護、ワークライフバランスに関する図書や DVD を置いています。

10月：センター設置



11月：男女共同参画教育プログラム講演会



11月：「文部科学省合同シンポジウム」、「大学等における男女共同参画セミナー」へ参加



2月：キックオフセミナー開催



3月：ニュースレター、リーフレットの発行



3月：KIT 交流サロンと参考図書



◆平成 24 年度活動報告 ライフイベント期間中の両立支援◆

研究支援員制度

出産・育児や介護期にある女性研究者等の研究活動を支援するため、大学院生等を研究支援員として配置することによって、ライフイベント期における研究活動の継続・進展を図る本学の制度です。また、大学院生のキャリア形成にも結びつけるものです。平成 24 年度は、11 月に利用者の学内公募を行いました。

【利用実績】

利用年度	利用教員数	利用事由
平成 24 年度	10 名（男性 2 名、女性 8 名）	育児：8 名 介護：2 名

【制度利用者の声（一例）】

教員：「研究資料の整理及び文献調査などの業務をおこなってもらい、子育てをしながらも研究が捗った。」
「子育て中で研究に割ける時間が限られる中、支援員の配置で効率的に研究を進めることができた。」
「支援員の補助のおかげで、論文の執筆やシンポジウムを滞りなく実施できた。」
支援員：「研究結果だけではなく、調査や分析の進め方、経過についても知ることができ、研究について深く理解できるようになった。」
「支援員の仕事を通じて、担当以外分野にも触れる機会ができ、自分の研究方法に役立った。」
「学業に役立つだけではなく、社会人としての基本、時間管理、自己管理の意識を身につけることができた。」

ベビーシッター育児支援制度

仕事と育児の両立を支援するため、一般財団法人こども未来財団が行っている「ベビーシッター育児支援事業」によるベビーシッター費用の一部補助（割引券）を行っています。

両立支援相談

KIT 男女共同参画推進センターのコーディネーターが、本学で学び、働き、研究する女性研究者や女子学生の方が研究と生活を両立できるよう、出産・育児・介護などライフイベント上の悩みや相談に応じています。支援に関する様々な制度・情報の提供も行います。また、男性教職員の方のご相談にも応じています。

相談内容やご希望により、学内の相談窓口とも連携して対応していきます。



◆平成 24 年度活動報告 男女共同参画の意識啓発と情報発信◆

キックオフセミナー

女性研究者がその能力を最大限に発揮できるよう、出産、子育て、介護等の「ライフイベント」と「研究」を両立するための環境整備と支援を積極的に推進しています。平成 24 年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」に採択され、女性研究者支援および男女共同参画推進の取り組みについて、キックオフセミナーを開催し、教職員、学生等の男女共同参画に関する意識啓発と活動促進を図りました。参加者は約 80 名でした。

日 時：平成 25 年 2 月 22 日（金）13：30～16：30

場 所：京都工芸繊維大学 60 周年記念館 2 階 大セミナー室

テーマ：「女性研究者の活躍と男女共同参画社会」

<プログラム>

- 開会挨拶 京都工芸繊維大学長 古山 正雄
- 基調講演 文部科学省科学技術・学術政策局基盤政策課 人材政策企画官 佐藤 弘毅 氏
「女性研究者の活躍をめざして—その取り組みへの期待—」
- 取組紹介 KIT 男女共同参画推進センター長（副学長）森迫 清貴
- 講演 I 東京学芸大学長 村松 泰子 氏
「なぜ大学における男女共同参画推進が必要なのか」
- 講演 II 岐阜大学副学長（男女共同参画推進室長）林 正子 氏
「男女共同参画意識を学内に浸透させるための組織づくり」
- 閉会挨拶 KIT 男女共同参画推進センター長（副学長）森迫 清貴

意見交換会（交流会） 京都工芸繊維大学 60 周年記念館



講師：文部科学省 佐藤弘毅 氏



講師：村松泰子 東京学芸大学長



講師：林 正子 岐阜大学副学長

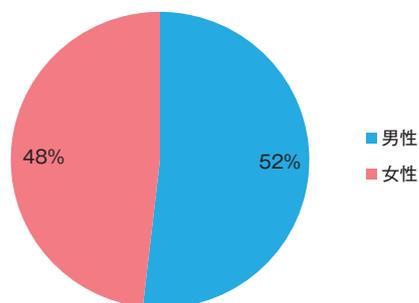


<参加者アンケート結果>

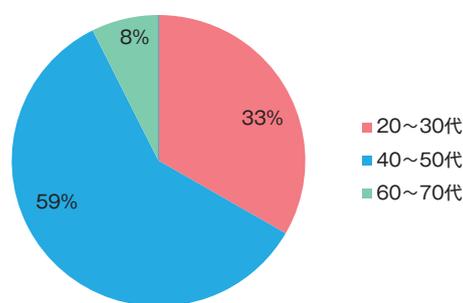
※回収率 46%

平成24年度

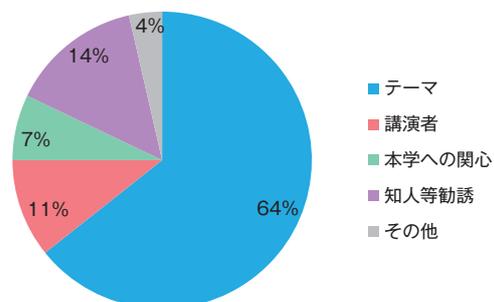
あなたの性別



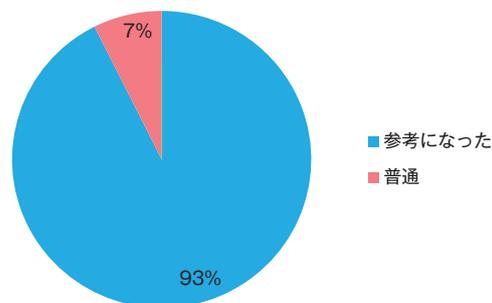
あなたの年齢



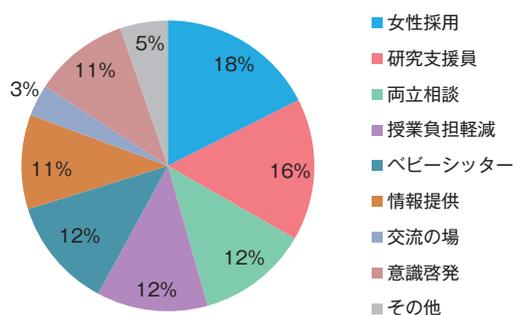
本日のセミナーに参加された動機



本日のセミナーについて



男女共同参画推進の取り組みで関心のあるもの（複数回答）



自由記述（一部抜粋編集）

- ・女性研究者が充実した研究ができるよう支援制度が図られていることを感じ取れた。
- ・各大学の工夫された取り組みは大変参考になった。
- ・実態を伴う男女共同参画の実現は難しいと思うが、継続的な取り組みに期待。

男女共同参画社会を実現するための教育プログラム講演会

理系分野での男女共同参画の現状と目指すところについて、学生の理解を深めるために平成22年度より本学の女性教員が実施しているプログラムです。これからの人生において、進路選択や就職活動、結婚、子育てに直面した時の参考になるよう、今年度は理系大学出身の女性講師を招き、第4回講演会を実施しました。約50名の参加がありました。

日 時：平成24年11月22日（木）14：00～19：00

場 所：京都工芸繊維大学 1号館 0111 講義室

テーマ：「理系女子のキャリア形成を考える」

<プログラム>

- 開会挨拶 KIT 男女共同参画推進センター長（副学長） 森迫 清貴
- 講演Ⅰ 澤田 順 氏（メトラー・トレド株式会社）
「理系女子のキャリア形成～ビジネス社会における夢と現実」
- 講演Ⅱ 横山 操 氏（京都大学生存圏研究所）
「研究課題とこどもとわたし」
- 講演Ⅲ 大塚 恵子 氏（地方独立行政法人大阪市立工業研究所）
「共働き研究職25年～後輩のみなさんへのメッセージ」

全体討論会・懇親会 京都工芸繊維大学 KIT HOUSE



男女共同参画社会を実現するための教育プログラム 第4回

理系女子のキャリア形成を考える

女子学生・男子学生 教員の方 皆さん大歓迎！

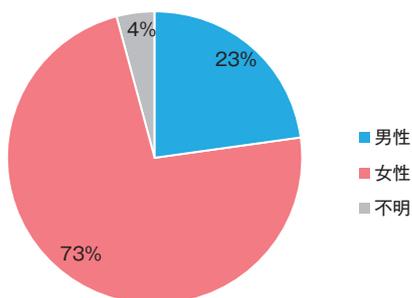
開催日時：平成24年11月22日（木）14：00～19：00
場所：京都工芸繊維大学 1号館 0111 講義室
主催：男女共同参画推進センター
協賛：理系女子会

14:00 - 14:10	開会の挨拶	京都工芸繊維大学 副学長 森迫清貴
14:10 - 15:00	『理系女子のキャリア形成～ビジネス社会における夢と現実』	メトラー・トレド株式会社 澤田 順 氏 部長 京都工芸繊維大学 学生 横山 操 氏
15:00 - 15:50	『研究課題とこどもとわたし』	京都大学 生存圏研究所 横山 操 氏 部長 京都工芸繊維大学 学生 大塚 恵子 氏
15:50 - 16:40	『共働き研究職25年～後輩のみなさんへのメッセージ』	地方独立行政法人 大阪府立工業研究所 大塚 恵子 氏 部長 京都工芸繊維大学 学生 森迫 清貴 氏
16:50 - 19:00	『全体討論会 + 懇親会（生協食堂）』	京都工芸繊維大学 学生 森迫 清貴 氏 代表 森迫 清貴 氏 内線 7153 E-mail: kane@kit.ac.jp

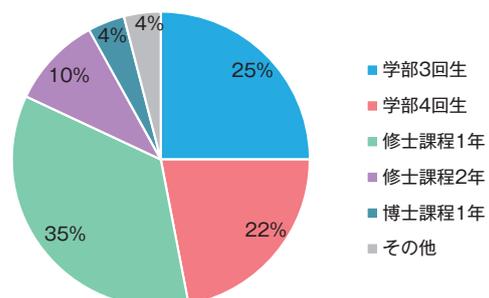
本講演会は平成24年度教育研究推進事業（教育事業）に実施されています。

<参加者アンケート結果>

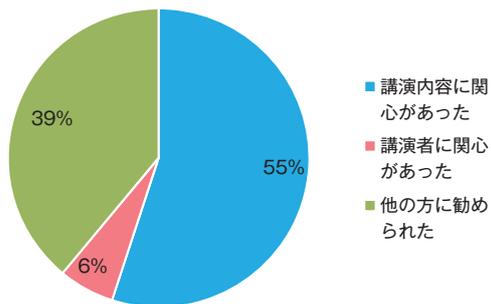
あなたの性別



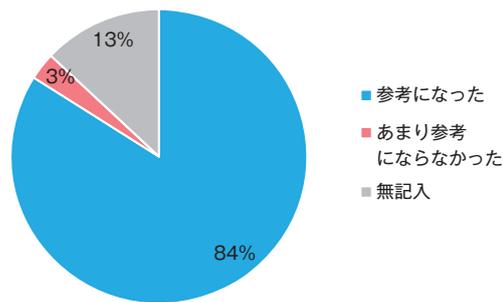
あなたの回生（学年）



参加された動機



本日の感想



自由記述（一部抜粋編集）

- ・男子学生対象の企画。子育て世代の男性を演者として男女共同参画のための取り組みや楽しいこと、やりがいみたいな話を男の人から話してほしい。
- ・今回のような女性研究者の方の講演会をもっと増やしてほしいです。事例を示していただけることは非常に参考になりました。
- ・働く女性への国、社会等のサポートの実状を聞いてみたいです。

情報発信・ホームページ

平成25年2月、KIT男女共同参画推進センターのホームページを開設しました。センターの活動や女性研究者支援、両立支援制度の紹介、育児・介護等に関する情報提供などを行っていきます。

URL <http://www.sankaku.kit.ac.jp/>

国立大学法人京都工芸繊維大学
KIT男女共同参画推進センター

TOPページ
KIT男女共同参画推進センターについて
女性研究者支援
育児・介護支援
学生キャリア支援
相談窓口
活動報告
センター参考図書
リンク集

応援します！
研究と生活の両立

お知らせ・イベント

- 平成26年06月12日（木） お知らせ 東北大学「平成26年度澤柳政太郎記念東北大学男女共同参画賞」公募のご案内
- 平成26年06月05日（木） お知らせ 内閣府「平成26年度 男女共同参画週間」のご案内
- 平成26年05月27日（火） お知らせ 国立女性教育会館「平成26年度 男女共同参画推進フォーラム」におけるワークショップおよびポスター展示募集のご案内
- 平成26年05月20日（火） お知らせ 文部科学省「100人男子会×女子会！ 学生だけの本音ミーティング」の開催のご案内
- 平成26年05月09日（金） お知らせ 国立高等専門学校機構「国立高専教員募集合同説明会」のご案内

アクセス・問い合わせ

Copyright(C)2013 国立大学法人京都工芸繊維大学 KIT男女共同参画推進センター All Rights Reserved.

○KIT 男女共同参画推進センター通信 ニュースレター

平成 25 年 3 月 創刊号を発行しました。女性研究者支援をはじめ、男女共同参画推進に関する、センターの取り組みや活動を紹介しています。

活動報告

セミナー 実施報告 平成 25 年 2 月 22 日(金)KIT 男女共同参画推進センター キックオフセミナー 「女性研究者の活躍と男女共同参画社会」を開催いたしました。



平成 25 年 2 月 22 日(金)午後、本学 60 周年記念館 2 階大セミナー室にて、本学の男女共同参画推進についてのキックオフセミナーを開催いたしました。

古山学長の開会の挨拶に続き、文部科学省科学技術・学術政策局 基礎政策課 人材政策企画官の佐藤弘毅氏より、「女性研究者の活躍をめざして」と題して、基調講演を行っていただきました。

次に、森迫 KIT 男女共同参画推進センター長より、本学の取り組みを紹介させていただきました。女性研究者の比率に関する達成目標や女性研究者の働く環境づくりとして、具体的な支援内容を説明いたしました。

休憩を挟み、「なぜ大学における男女共同参画推進が必要なのか」と題して、東京学芸大学長の村松泰子氏より、ご講演いただきました。「各大学の工夫された取り組みは大変参考になった」、「実態を伴った男女共同参画の実現は難しいと思うが、絶望的な試みに期待」など多くの感想が寄せられました。佐藤企画官、村松学長、林副学長をお招きし、男女共同参画推進について理解と意欲を深めるまたとない機会となりました。

続いて、「男女共同参画意識を学内に浸透させるための組織づくり」と題して、岐阜大学副学長であり、男女共同参画推進室長の林正子氏より、ご講演いただきました。男女共同参画宣言と行動計画を策定し、女性教員限定公募や各学部での FD 研修など具体的な取り組みの実例をお話していただきました。

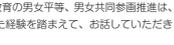
参加した本学および他大学の教職員の方々より、「女性研究者が充実した研究ができるよう支援制度が回っていることを感じ取れた」、「各大学の工夫された取り組みは大変参考になった」、「実態を伴った男女共同参画の実現は難しいと思うが、絶望的な試みに期待」など多くの感想が寄せられました。佐藤企画官、村松学長、林副学長をお招きし、男女共同参画推進について理解と意欲を深めるまたとない機会となりました。



基調講演の様子 講師：佐藤弘毅氏



東京学芸大学長 村松泰子氏



岐阜大学副学長 林正子氏

～応援します！研究と生活の両立～

NEWS LETTER

KIT 男女共同参画推進センター通信

創刊号
2013.03

ご挨拶 京都工芸繊維大学長 古山 正雄



人間の知性と感性の両方を求め、「知と美と技」を追求する独自の学風を築き上げた本学において、豊かな人間性にもとづく男女共同参画社会を推進してまいります。「男女共同参画社会基本法」の理念を踏まえ、全ての学生と教員・職員が相互に尊重しあい、多様な個性や能力を生かしながら大学創りを目指してまいります。

教育と人材育成は大学の使命です。男女がともに持ち味を発揮し協働することは、新たな発展を拓き、可能性を拡大させるはずです。

今後は、KIT 男女共同参画推進センターを中心に、学内はもとより、他大学や関係機関、地域のみなさまと連携協力を図りながら、女性をはじめとする多様な人材の活用や育成に積極的に関わり込んでまいります。みなさまのご支援とご協力をお願い申し上げます。

創刊にあたって KIT 男女共同参画推進センター長 森迫 清貴

男女共同参画の新しい社会に向かって、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に配慮した教育、研究及び環境づくりが求められています。

KIT 男女共同参画推進センターは、本学の男女共同参画推進の拠点として設けられました。コーディネータの配置をはじめとする女性研究者支援体制の充実や教育研究環境の整備のほか、意識啓発活動を展開しながら、女性研究者の採用・費用・育成を強化し、大学運営に女性の視点を生かしていきたいと考えております。

また、女性研究者の比率に関する数値目標を設定し、女性研究者の支援活動の促進とともに、男女ともにひとりひとりの仕事と生活の上に、その能力を最大限発揮できる男女共同参画の在り方を目指し、大学の環境改善、活性化に努めてゆくと存じます。

さらに、工科大学としては女子学生の比率が高い本学の特色を踏まえ、女子学生や院生へのキャリアパスなどの研究活動支援や交流促進を通じ、次世代研究者の裾野拡大にも重点的に取り組んでまいります。みなさまからの意見や要望をもとに多様な視点で、本学の全ての人々にとって、働きやすく学びやすい環境づくりに当センターを有機的に機能させてまいります。



このニュースレターが本学の教職員、学生のみなさまの男女共同参画について関心を高めていただく機会となることを願っております。

インフォメーション

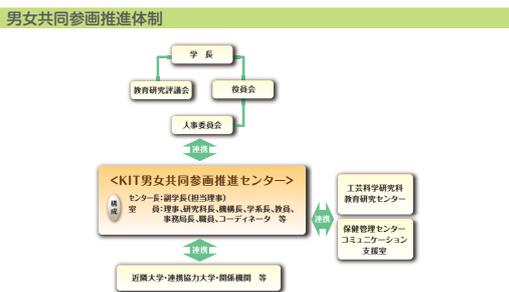
センターおよびザロンの紹介 平成 25 年 2 月 22 日(金)、キックオフセミナーに先立ち、文部科学省の佐藤企画官、村松東京学芸大学長、林岐阜大学副学長に、本学 KIT 男女共同参画推進センター（本学 2 号館南棟 1 階 134 号室）と KIT 女性サロン（133 号室）を見学していただきました。

また、キックオフセミナー終了後は、参加された他大学の教職員の方々にもセンターおよびサロンをご案内させていただきました。



～応援します！研究と生活の両立～ ◇◇京都工芸繊維大学 KIT 男女共同参画推進センター◇◇
 住 所 〒 606-8585 京都市左京区松ヶ崎橋上町 京都工芸繊維大学 2 号館南棟 1 階 134 号室
 TEL・FAX 〒 06-724-7757（内線 7757）
 Eメール sankaku@kit.ac.jp ホームページ http://www.sankaku.kit.ac.jp/

本学の女性研究者がその能力を最大限発揮できるよう、出産、育児または介護などライフイベントと研究を両立させるための環境整備や研究活動支援事業が、平成 24 年度文部科学省科学技術・学術政策局「女性研究者研究活動支援事業」に採択されました。



KIT 男女共同参画推進センター構成

*平成 24 年 10 月 1 日現在

センター長(理事・副学長)	森迫 清貴
コーディネータ	森山 文恵
○ 査 員	
理事・副学長	竹永 睦生
理事・事務局長	山下 馨
工学科学研究科長	松野 謙一
教育推進支援課長	森 肇
生命情報科学系長	原田 俊郎
生体分子工学部門教授	亀井加恵子
電子システム工学部門教授	大柴小枝子
建築造形学部門准教授	清水 重敏
言語・文化部門准教授	竹井 智子
人事労務課長	坂口 義美
研究推進課産学連携室 知的財産係長	三宅 由華

取 組 み

- 研究活動とライフイベントの両立支援
- 男女共同参画に向けての意識啓発活動
- 女性研究者ネットワークの構築

達成目標

- 女性研究者の在籍比率
平成 26 年度 13% 平成 27 年度 15%
- 女性研究者の採用比率
平成 26 年度 33%
- ライフイベント要因の女性研究者の離職をゼロに



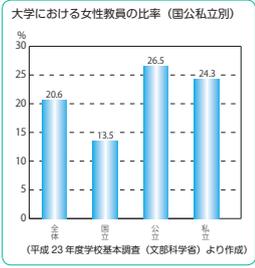
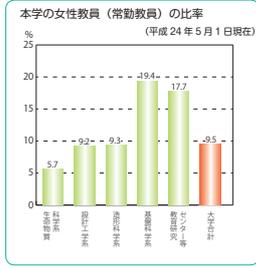
具体的な活動

- 研究支援員制度
- 両立支援相談
- ベビーシッター・育児支援制度
- 女性研究者交流促進
- 男女共同参画推進セミナーの開催
- ホームページ等での情報発信
- ニュースレターの発行 など



URL: <http://www.sankaku.kit.ac.jp/>

女性研究者のデータ



男女共同参画社会基本法について

平成 11 年 6 月に、「男女共同参画社会基本法」が制定されました。(女性の権利の尊重)・(社会における制度又は慣行についての配慮)・(政策等の立案及び決定への共同参画)・(家庭生活における活動と他の活動の両立)・(国際的協調)の 5 つの基本理念が定められ、それに基づいて、国や地方公共団体・国民の果たすべき責務が明らかにされています。

そして、さまざまな分野への女性の参画を促す数値目標と期限を設けた「第 3 次男女共同参画基本計画」が、平成 22 年 12 月に策定されました。

この計画では、科学技術・学術分野における男女共同参画の成果目標として、「自然科学系の女性研究者を早期に 25%へ。そして、更に平成 27 年度までに 30%へ。特に理学系 20%、工学系 15%、農学系 30%の早期達成を目指す。」としています。

内閣府男女共同参画局HP <http://www.gender.go.jp/>

平成 24 年度